

平成 29 年度

宮 田 村 教 育 委 員 会 1 月 定 例 会 々 議 録

1 開催日時：平成 30 年 1 月 26 日(木) 13：30～15：30

2 開催場所：村民会館 第 1 研修室

3 出席委員

- (1) 長嶋 良子 教育長（以下「教育長」と表記。）
- (2) 篠田 秀児 委員長職務代理者（以下「職務代理」と表記。）
- (3) 鷹野 綾子 委員（以下「鷹野委員」と表記。）
- (4) 古藤 祐巳子 委員（以下「古藤委員」と表記。）
- (5) 伊藤 一幸 委員（以下「伊藤委員」と表記。）

4 欠席委員：なし

5 その他、会議に出席した者の氏名

- (1) 北原 敦 学校係長（以下「学校係長」と表記。）
- (2) 平澤 義章 子育て支援係長（以下「子育て係長」と表記。）
- (3) 本田 留美 生涯学習係長（以下「生涯係長」と表記。）

6 教育長あいさつ

7 会議録承認 12 月定例会 （事前配布）

8 議 題

(1) 報 告

報告 1 号 教育委員会活動報告について 12～1 月 (1 ページ)

子育て係長：資料について説明

教 育 長：1 月は韓国から商業高校、工業高校などの学生が 4 回、合計 500 人以上が来村し挨拶した。賀詞交換会は大勢見え村長、議長の挨拶のあと名刺交換した。報告に関してよろしいですか。

委 員：了解

報告 2 号 1 月臨時議会補正予算報告について (2～3 ページ)

学校係長：就学援助事業について、小中学校の入学後に支給していた就学援助金を前倒しで 3 月支給とする。金額は国の基準に合わせ、内訳は 3 ページの通り。新入学学用品費以外は

入学後支給する。

教 育 長：給食費は75%を支給しているので、手厚いと思う。

鷹野委員：伊那市では、給食費保証人の書類が入学時に渡されたというが、宮田ではどうか。

学校係長：宮田は未納者が年度途中にいても、年度末には解決している。

教 育 長：入学時に一番お金がかかるので、他市町村同様に宮田も前倒し支給するのでご承知おきください。議会に関してはよろしいですか。

委 員：了解。

報告3号 新年度予算の概要について (4~8 ページ)

子育係長：輝く子育て応援事業について。第2子以降保育料無料で計上。輝く子育て応援金は、転入新築の場合5年間固定資産税無料で100万円増。子育てファミリー奨励金は今年から開始して12人が対象になり、来年は10人を見込んでいる。

保育所運営事業について。臨時保育士・調理員賃金は今年より500万円増。内訳は29年に賃金の段階を改定し、単価改定で150万円増。嘱託保育士はなり手が少ないので担任手当を上積みして130万円増。長時間保育が増えているので200万円増で計500万円増。

保育所施設改修について。未満児が非常に多くなっているため、東保育園とこうめ保育園の改修で700万円弱増。西保育園のプールの塗装に200万円計上、他は昨年並み。

学校係長：小学校教育援助事業について。英語教育サポートは例年より400万円弱増。ELTが2名、授業カリキュラム作成に1名、地域のサポートをする職員が1名で合計4名。うち1名が英語教員として常勤する。中学校教育援助事業は前年同様。

青少年健全育成事業は隔年開催の推進大会を予定している。

学童保育事業については現行の6人体制でいきたい。来年は退職者が出るので1名男性を加え2名にする予定。

コミュニティスクール運営事業は重点的な予算配分にしている。土曜教育はうめっこらんど、地域未来塾は中学校で行う。放課後子ども教室は英語と算数を予定。

小学校管理事務では職員のPCを10台購入予定。小学校はICT化によりWi-Fiの環境整備を推進する。

小学校教育振興事務は支援員賃金の村費分1200万円が増えている。各クラスの支援員、医療的ケアの支援、日本語教室、通訳などを含めている。

中学校施設・設備整備事業では、ICT化によるLANの工事を3年計画で進める。

生涯係長：村民会館管理事務では、太鼓の皮の張替えとエレベーターの修繕がある。エレベーターは多くの修繕箇所があるので長期計画を立て、今年は制御盤の修繕をする。

体育施設管理事業について。工事請負費は宮田球場の照明の塗装を毎年1本ずつ行い200万円。文化会館の屋根が300万円。マレット場のポンプ108万円と看板75万円を計上。

鷹野委員：村民会館の太鼓の張替えについて、太鼓は会館で持っているのか。太鼓の使用料はいただいているのか。

生涯係長：使用料はいただいていない。当初青少年の健全育成のこともあり教育委員会で購入し、

管理している。今は主に『梅が里宮田太鼓』のみなさんが使用、管理している。

鷹野委員：村民会館のピアノは有料なのに太鼓はいいのか。ピアノの調律はどうしているのか。

生涯係長：調律は年間点検で村民会館が出している。今までの経過を確認したい。

伊藤委員：人件費が突出しているが適正に支払われているかが問題。仕事に見合っているか、公平な審査がされているか、確認しなくていいのか。会議する以上は必要な理由を言ってもらった方が聞いていてわかる。

教育長：伊藤委員がおっしゃるように宮田は小中学校に支援員が多い。村長も子どもたちが輝く村と掲げ教育に力を入れてくださっている。本当に支援員増で成果が出ているか検証しなければいけない。支援員に目標をもってしっかりやっていただくのが大事かと思う。

小中学校・園の職員とも面談し、本当に支援員が必要なのかなどについて話し合った。宮田の最重要課題は発達障害で、グレーゾーンのお子さんが非常に増えている。また、保育園の未満児の人数が異常なほど増え、安全面を考えるとどうしても人手が必要。配慮を要するお子さんが増え、1対1の支援が必要なお子さんも入ってきている。プログラミングはゲームではなく論理的思考を培う。上伊那の中でも宮田はICT環境が遅れている。2020年にはすべての教員がタブレットを使い子どもに指導できるよう、外部からICTの専門家を招き研修もしていきたい。

古藤委員：先生はただでさえ仕事量が多いのに大変。道徳は4月から始まるのか。

教育長：2020年完全実施。今から始めないと間に合わないので4月から試行的にやっていく。

鷹野委員：小学校のオーディオメーターとは何か。

学校係長：聴力を測定する機器。

古藤委員：電子黒板は文科省から借りているのか。

学校係長：電子黒板は文科省の事業では認められないのでレンタル。事業が終わったら買い取る。

教育長：文科省の指定は、通常級における発達障害の疑いのあるグレーゾーンのお子さんたちに有効な教科指導の在り方を研究して報告する。電子黒板は学級を決め通常学級に設置する。

職務代理：場合によっては子どもたちを先生にして、先生たちが習うのも意外といい。プログラミングは本当は楽しいはず。

伊藤委員：未就学と小学校、中学校と生涯教育で暗黙の了解で金額の比率などは考えているか。

子育て係長：3年ごとの実施計画が出て全部積み上げにより大体枠が決められていく。

伊藤委員：長い年月の間に大枠が決まり、大体それに沿うわけですね。暗黙の間に作っておかなければいけないと思ったので聞いた

古藤委員：保育園にはELTはないか。

学校係長：小学校の中に含まれている。

伊藤委員：私が以前小学校でインターナショナルデーをやったときに、カラーコピーが必要だった方が非常に高いから使わせてもらえないと聞いた。ちゃんとした紙を買ってカラーコピーした方が良い。ルールを確認してほしい。

学校係長：学校は節約していると思うので、今後は村でやる。

教育長：よろしいですか。

委員：了解。

8 その他

(1) 当面の日程について 1～2月 (34 ページ)

子育係長：資料について説明。

教育長：コミュニティスクールについて資料により説明

環境整備、安全見守り、学習支援、キャリア教育を無償でやっていただける方を募集する。

第一の目的は、学校運営に参画していただき地域や保護者の意見を聞く場を設ける。子どもたちへの願いを共有しながら共に子どもを育てる環境作りを推進したい。来年度からは運営委員会を年2回開催し、学校・保育園の運営方針を園長校長が説明し、理解いただきながら地域の意見も出していただく。

資料のとおり、学校、保育園から支援を希望する内容が届いている。保育園は行事関係、教材作り、環境整備など。小学校は、遠足ではいろいろなお子さんがいるのでボランティアの多くの目を見ていただきたい。環境整備、学習面でミシン・料理・野菜作り等、安全見守り安心の家など。中学校は環境整備、登山、チャレトラ、学習面で木工指導など教えて下さる方を求めている。

議会が通れば、4月にチラシを配布しボランティアを募集したい。この案について意見があればいただきたい。

民生児童委員会で配布した資料『一教育委員会からのお願い一』について説明

発達障害サポーター研修について。周りの大人が発達障害について理解を深めることが大事なので、発達障害サポーター研修を受けて皆さんにサポーターになってもらいたい。伊那養護学校には小学校6名、中学校2名、高校4名のお子さんが通っている。副学籍で入学式卒業式等には参加できるが、保護者の皆さんは学校行事だけでなく地域の行事にも参加したいという要望がある。いずれ宮田で生活するようになるので、地域の仲間とのつながりを持ってほしいと思いががあるので大事に受け止めたい。

塾にいけないお子さん対象に放課後学習支援を行うよう、文科省が進めている。週1回放課後に算数と英語学習を支援する。全体に募集をかける。

県・国から補助金が出る放課後子ども総合プラン推進事業について説明

放課後子ども教室では月1回行っている英語教室を来年度から毎週1回にし、土曜学習に行っている算数教室も毎週にして、5・6年生に募集をかける。村長と相談した結果、人数制限せずに希望者は全員受け入れ、多い場合は講師を増やす。

中学では地域未来塾を学校で取りまとめて年7回行っている。分からないことが聞けると人気で、100～150人と希望者も多いので継続する。

うめっこ塾1は8講座あり、来年度は算数道場の代わりにお菓子作りが入る予定。

うめっこ塾2はいろんなジャンルを学ぶ。児童館の土曜日の行事と重なり子どもの取り合いになっていたため、次年度からは児童館事業にする。これらは1時間1080円の報奨金をお支払いしており、今後も継続していきたい。

安心の家の数が41軒と減ってきているので、もう少し増やしたい。学校やPTA・校外指導部にお願いし、安心の家の方々に子どもたちを紹介して名前を覚えてもらえと思う。安心の家のマップを学校の玄関に貼り子ども・保護者にも伝える。見守り隊は教育委員会で募集する。現在50名の登録があるが引き続きやっていただけるか確認し、参観日などで保護者に見守り隊を紹介する。見守り隊には下校時間を伝え無理のない範囲でお願いする。教育委員の皆さんもぜひお願いしたい。

鷹野委員：発達障害のサポーターとコミュニティスクールとは同じか。

教育長：障害者サポート講座で特性を正しく理解してもらい、特性に合った支援をしてもらおうと子どもたちは救われる。

伊藤委員：養護学校に通う高校生徒はどんな生徒か。養護学校は高校生の部もあるのか。

教育長：小中学生はバスで通っているが、高等部は自立を促すため電車で通ったりしている。卒業後は村内に就職する子もいる。

職務代理：上伊那農業高校にも分教室があり、畑を耕したりしている。

伊藤委員：勉強不足だった、見に行きたい。

教育長：支援員が多いことについて。現在小学校には知障学級が2クラス、自情障学級が4クラスあってそれぞれの定数は8名。新小学生で知障学級に3名、自情障が7名で計10名、新中学生が知障学級に2名、自情障が5名で計7名が入級する。

支援員6名のうち4名は自情障の学級に配置する。

もうひとつ、読み書きが苦手な子どもたちの困難さを取るビジョントレーニングやMIMを行う教室がほしいと、学校から要望がある。県から指定されている自情障は4クラス、知障2クラス、プラス宮田独自の学習や心の悩み、不登校などフォローする1クラスとなる。

中学校も定員がいっぱいになるが、自情障のSSTや専門の学習をして通常学級で学習できるようになったお子さんもあり、中学は増設なしでいく。

文科省の研究を受け、通常学級でニーズに応じた支援ができるように研究している。読み書きの困難なお子さんのスクリーニング調査をして支援が始まり、道村式漢字学習も入って成果を上げている。通常学級の国語と算数をどうするかが今後の課題。

給食に米飯を増やす話が出ている。子どもたちの朝食を聞くとご飯とみそ汁が減って、噛まないから子どもたちの顎が小さくなり歯肉炎や歯周病が増えている。

古藤委員：朝食をとらない子もいる。中学は給食の時間が遅いので頭が働かないのではないか。

教育長：朝食アンケートでは6年生が98%食べてくると回答しているが、保健師さんの話では母親が食べたくないから作らないという話もある。子育て5カ条もしっかりPRしたい。保育園の状況について。今年から第2子の保育料が無料になり、保育園の未満児の入所数がH26は2歳児の26%だったが、H30は2歳児72.1%。0歳16.1%、1歳42.9%。

村の方針で希望者は受けるようにしていたが、現状を村長に伝えてところ、村長も3歳までは保護者が見るのを大事にするよう、入所基準を見直してほしいということだった。

鷹野委員：保育料を無料にするから入所者が増えるのは当たり前だと思う。

職務代理：自宅で未満児の子育てをする人にお金を支給するという話はどうか。

鷹野委員：支給する金額によってお母さんたちの考えが違ってくる。1,2万円では保育園に預けて働き、もっと稼いだ方が良く考える。

古藤委員：以前は未満児を預けるとすごくお金がかかっていたので、自分で見る人が多かった。

伊藤委員：親が育てた方が得だという風に、保育所の改修を止めてそのお金を親に配ればいい。

教育長：保育士も足りなくて募集に苦労している。結局、保育士の資格を持たない人も取らざるを得ず、担当職員が子どもを見つつパート職員の指導をしなければいけない。安全面で本当に心配だという意見がある。入所基準を今後見直していきたい。

職務代理：社会問題的に見ると、小さな子供を持つお母さんやリタイアした人たちが低賃金で働く、企業は低賃金で働く人がいるからと、安直な賃金労働に頼り悪循環になる。

伊藤委員：村民税を多く払っている人は保育所に入れるというような経済的条件はないのか。一生懸命働いて税金を多く払っている人の子をまずは見るのが村の原則ではないのか。

子育て係長：3歳以上の子は親が就業していなくても希望があれば入れる。未満児は保育に欠ける人に限り入ることができ、保育料は所得税によって異なる。

鷹野委員：中川村のように『未満児は本当に保育できない人だけ見る』と基準に入れたほうがいい。人口を増やしたいのに、宮田に保育園の間だけいてそのあと村外に家を建てたら、見てあげただけで終わってしまう。

子育て係長：来年は同じ制度ですすむが、今後、基準を見直す。

古藤委員：ここまで数字でできめんに出るとは思わなかった。途中で退所しなければいけなくなる可能性もありますね。

教育長：また、話題にしたい。他に何かありますか。

生涯係長：人権擁護推進会議 29年度の委員の選出をまだしていなかったのをお願いしたい。平成26年4月、共同参画という面から女性委員の古藤さんをお願いした。古藤さんに引き続きお願いしたいが、いいですか。

古藤委員：はい。

教育長：以上でよろしいですか。

委員：了解。

教育長：本日はありがとうございました。